

景観の意味理解への態度が地域アイデンティティへの指向性に与える影響

東北工業大学 学生会員 ○近石さゆり
東北工業大学 正会員 泊 尚志

1. はじめに

景観は地域アイデンティティを強化するものという考え方が示唆されている¹⁾。景観の捉え方は多様であり、景観阻害要因と言われる景観資源が地域アイデンティティとして認識される場合もある。すなわち、景観そのものと地域アイデンティティそのものの直接的な関係のみならず、人々の景観への接し方と人々の地域アイデンティティへの指向性に関係があると考え得る。景観における地域アイデンティティへの指向性には、景観に対する意味理解への態度が影響すると考える。以上の認識の下、本研究では人々が景観を認識する際の景観に対する意味理解への態度と地域アイデンティティへの指向性との関係について、文献調査に基づいて基礎的な考察を行う。

2. 本研究の位置づけ

国土交通省によると、景観行政団体及び景観計画策定団体数は増加傾向²⁾にある。外国人観光客誘致に向け、景観整備を促進する動きがある。このような動きの背景には様々な要因があるが、近年では地域アイデンティティの観点から景観の重要性が唱えられている。例えば欧州景観条約³⁾では「景観はヨーロッパのアイデンティティを強化するもの」と示している。また、国土交通省「美しい国づくり政策大綱」³⁾では、取り組みの基本姿勢においても「地域の個性重視」が挙げられている。さらに、まちの景観を意識し、景観に関する様々な取り組みを行う景観まちづくりの4つの目的の一つに地域らしさ、このまちらしさを景観から感じられるようにする「アイデンティティの獲得」がある⁴⁾。

一方、新たな「国土のグランドデザイン」⁵⁾では、(1)多様性の再構成、(2)連携革命による新しい集積の形成、(3)災害への粘り強くしなやかな対応という3つの基本理念を唱えている。そのうちの(1)多様性の再構成について、「多様性(深い固有性)」は世界

的な普遍性を持つ」としている。

以上のことから、都市政策として地域の固有性、多様性といった地域アイデンティティに関わる点が重視されていることと、景観は地域アイデンティティの一要因であることがうかがえる。また、今後の日本の景観政策において地域アイデンティティは重要な観点の一つであることも示唆できる。

以上を踏まえて、本研究では次の点について既往研究に基づいて考察する。はじめに、地域アイデンティティの都市政策的意義、次に、地域アイデンティティにおいて景観が果たす役割、最後に、人々の景観への接し方、特に景観に対する意味理解への態度が、人々の地域アイデンティティへの指向性に影響を与える影響についてである。

3. 地域アイデンティティの意義と機能

地域アイデンティティ概念とは多義的であり、地域アイデンティティ概念は複数に分類されることが分かっている。例えば、城月ら⁶⁾は、政策的な文脈内での地域アイデンティティの概念定義を整理した。その結果、(1)地域(と関連する自己)アイデンティティと、(2)地域(が持つ)アイデンティティの2つの異なる定義が存在することが分かった。また、渡部ら⁷⁾は、地域アイデンティティの概念の中には(1)長年の居住を通じた対象との密接な関係性(2)他地域と比較した際の特性や優位性といった内容を含むと論じている。したがって、地域アイデンティティという言葉が都市政策上で使用する際には、概念の曖昧さを理解し、定義に注意することが必要である。

次に、地域アイデンティティという言葉が注目されてきた背景について、重岡ら⁸⁾は、「住民参加の形骸化」という問題の背後には地域アイデンティティの動揺があるとした。山川⁹⁾は中山間地域における限界集落問題、地方都市における中心市街地の空洞化、大都市郊外における大規模団地問題等を、地域ア

キーワード 景観、意味理解への態度、地域アイデンティティへの指向性、地域愛着

連絡先 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1 東北工業大学 TEL022-305-3533

アイデンティティの危機と述べている。したがって、地域アイデンティティという言葉が注目されてきた背景には、住民参加や限界集落問題、地域の無個性化といった地域問題を地域アイデンティティ問題として取り上げられてきたという側面もある。また、地域アイデンティティという言葉は、地域の個性を特徴づけるものであり、とりわけ地方の地域活性化や地域づくりの文脈で使用されている。一方、住民のアイデンティティ形成に景観を含む地域資産との関わりの深さが影響することが指摘されている¹⁰⁾。

4. 景観と地域アイデンティティ

地域アイデンティティと景観の関係に関する議論は多くある。中でも例えば富田¹¹⁾は、「景観の価値とは本来個人の感性によるところが大きく、それぞれの景観に対する思い、感情や行為が、見る者のもつ価値規範に反映されるものと考えられる」と論じている。また、山本¹²⁾は、場所を構成する要素には、誰にとっても不変の地理的要素、人為的要素、物理的表出物という客観的特質と、個人によって異なる、個人の経験、客観的要素の理解、獲得した規範・文化という主観的な要因があるとし、市民活動を通じた場所への関わり方によって主観的な要因は変化し、場所に新たな意味を与えるとした。

以上を踏まえると、景観そのものによる影響もさることながら、景観との接し方が人々の地域アイデンティティ形成やその指向性に影響を与えることが示唆される。このような、景観に対する意味理解への態度が地域アイデンティティへの指向性に与える影響については、今後の検証課題である。

5. まとめ

本研究では、人々が景観を認識する際の景観に対する意味理解への態度と地域アイデンティティへの指向性との関係を考察することを目的として文献調査を行った。その結果、景観に対する意味理解によって景観に対する意味が変化し、これらは地域アイデンティティへの指向性にも影響を与えることが示唆されるが、その検証は今後の課題である。

参考文献

1) 欧州景観会議協議会：The European Landscape Convention 最終閲覧日：2021/1/25,
<https://www.coe.int/en/web/landscape/about-the-convention>

2) 国土交通省都市局公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備室：景観法等に関する最近の動向について、最終閲覧日：2021/1/25,
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/tosijyu/ud49g7000000i4kv-att/rk3-2.pdf>

3) 国土交通省：美しい国づくり政策大綱，平成15年7月

4) 内山久雄，佐々木葉：景観とデザイン，オーム社

5) 国土交通省：新たな「国土のランドデザイン」（骨子），平成26年3月

6) 城月雅大，園田美保，大槻知史，呉宣児，所谷茜：「まちづくり心理学」の創出に向けた主要論点の整理：計画論と環境心理学の橋渡しによる地域再生のために，人間・環境学会誌，16巻（2013）1号。

7) 渡部陽介，横張真：行為と距離の観点からみた農村地域居住者が地域アイデンティティとして認識する景観の特性，ランドスケープ研究，73巻（2010）5号。

8) 重岡徹，山本徳司，栗田英治，木下貴裕：農業農村整備事業の導入に伴う地域アイデンティティの再醸成機能に関する考察，農業農村工学会誌，78巻（2010）9号。

9) 山川充夫：地域アイデンティティの再構築に向けて—経済地理学からの接近—，学術の動向，16巻（2011）3号。

10) 小谷 仁務，横松 宗太：アーティファクトとしての地域資産と住民のアイデンティティ形成：カテゴリ選択モデルアプローチ，土木学会論文集D1（景観・デザイン），71巻（2015）1号。

11) 富田恵子：景観的要素を活かした持続可能な地域デザインの考察：集住の風景とローカルアイデンティティの再編，21世紀デザイン研究

12) 山本美保里：市民活動の持続可能性に関する心理要因分析による場所への働きかけの意味に関する考察，景観・デザイン研究講演集，No.16，2020年12月